

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2018.8 No.78

写真提供：金沢市

－特集－

- 1 頁：「教職員の多忙化改善に向けた取組方針について」
2・3頁：「金沢城公園 鼠多門・鼠多門橋の復元整備について」
4・5頁：インタビュー 「人」

石川県教育委員会事務局教職員課長 杉中達夫 氏
石川県土木部次長兼公園緑地課長 浜田哲郎 氏
日本画家 古澤洋子 氏



「教職員の多忙化改善に向けた取組方針について」

石川県教育委員会事務局教職員課長 杉中 達夫

教職員の勤務状況については、平成28年に文部科学省が実施した調査において、いわゆる過労死ラインとされる月80時間を超える時間外勤務を行った者が多数いるなど、看過できない多忙な状況が明らかになり、こうした中、本県においても、平成29年4月から教職員の時間外勤務の状況について調査を実施し、国の調査結果と同様に多忙化の現状が明らかになったところです。

こうした状況を踏まえ、県教育委員会では、平成29年8月に、県教育委員会、市町教育委員会、学校現場及び関係団体の代表者からなる教職員多忙化改善推進協議会を立ち上げ、平成30年度から具体的取組を進める基となる方針を取りまとめるべく、学校現場等の意見も聴取しながら協議を重ね、昨年度末に、取組方針を取りまとめました。

本取組方針においては、効果的な取組を進めるための基本方針を3点掲げました。

- ①長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を十分に確保するという観点に立ち、取組を進める。
- ②多忙化の抜本的な解消には、国による教職員の定数改善が必要不可欠であり、引き続き国に対して改善を強く求めていく。
- ③国による教職員定数の改善がない中で、教育の質を落とさず教職員の時間外勤務を縮減することは大変難しい課題であるが、国の対応を待つだけでなく、県教育委員会、市町教育委員会、学校現場及び関係団体が問題意識を共有し、足並みを揃えて、出来ることから一つ一つ着実に改善に向けた取組を実行していく。

また、取組を進めるにあたって以下の5点に十分留意することとしました。

・取組方針を全教職員に周知し意識改革を図るとともに、保護者や地域の方々の理解や協力も得ながら取組を進める。

・部活動指導については、教職員の負担軽減や教科指導等に取り組む時間の確保という観点に加え、生徒の学習面や健康面などバランスのとれた健全な成長の確保という観点や、生徒のニーズに応じた技能の向上を図る観点も十分に踏まえて取組を進める。

・国の「学校における働き方改革に関する総合的な方策」や「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」などを踏まえて取組を進める。

・教職員の勤務時間調査を継続するとともに、学校現場の実情を十分に踏まえつつ、効果や課題を丁寧に検証しながら具体的取組を進め、必要に応じて取組の見直し充実を図る。

・時間外勤務の縮減が目的化し、教育活動がおろそかになったり、勤務時間外に行っていた業務が持ち帰り業務とならないよう、十分留意して取組を進める。

時間外勤務縮減の達成目標については、「時間外勤務時間の平均を前年度より減少させる」とともに、「業務分担の適正化等により3年後までに月80時間を超える教職員ゼロを目指す」こととしました。

学校現場は教職員の情熱と献身的な努力に支えられている面が多々あり、こうした多忙な勤務状況を見直さなければ、教職員が疲労や心理的負担を過度に蓄積して心身の健康を損ない、子供たちと真摯に向き合うことができなくなる恐れがあり、さらには教職員を志望する優秀な人材の確保が困難になることが危惧されます。

全国的にも高い本県教育の水準を維持しつつ教職員の勤務時間を減らすことは大変難しい課題ですが、本取組方針を基に教育委員会や学校現場等の関係者ができる限り足並みを揃え、効果や課題を丁寧に検証しながら、この4月より具体的取組を進めています。取組を進めるにあたっては、保護者や地域等の関係の皆様のご協力が不可欠であり、ご理解を賜りますようお願いいたします。

「金沢城公園 鼠多門・鼠多門橋の復元整備について」

石川県土木部次長兼公園緑地課長 浜田 哲郎



石川県の歴史文化の象徴ともいえる金沢城公園では、これまで史実を尊重した、本物志向で復元整備に取り組んできました。具体的には、平成13年に菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓、平成

22年に河北門といもり堀、北陸新幹線金沢開業に合わせて平成27年には橋爪門二の門と玉泉院丸庭園の復元整備を行ってきました。

この結果、昨年度の入園者数は約226万人と新幹線金沢開業前の約1.7倍を数え、現在も国内外から多くの皆様方にお越しいただいており、平成の時代に蘇った金沢城の姿は、訪れる皆様方から高い評価をいただいています。

さらに、石川県では、新幹線金沢開業後も引き続き、金沢城の価値と魅力をさらに高めるため、平成27年12月に鼠多門と鼠多門橋の復元整備を柱とする「第三期整備計画」を策定しました。

鼠多門・鼠多門橋の復元整備に向けた埋蔵文化財調査では、門の礎石位置などを特定できたほか、側壁石垣の下部が残っていたなど、鼠多門に係る各種の遺構を検出することができました。併せて絵図・文献等の調査を行い、史実を踏まえながら準備を進め、今般、6月10日に鼠多門橋の起工式を執り行ったところ です。

今回復元整備を行う鼠多門は、藩主が藩政を執り行うとともに居住の場でもあった二の丸御殿と、隠居した藩主や世継ぎの御殿があった金谷出丸とを結んでいた門です。したがって、城の内部の私



側壁石垣の検出状況

的な門であり、今まで復元してきた河北門や橋爪門のような枳形門ではなく、単体の門でした。江戸初期に創建され、城内の多くの建物が焼失した宝暦の大火（1759年）でも焼失することなく、明治17年（1884年）に焼失するまで約250年間存続し、いわば、金沢城の歴史の多くを知る門ともいえるものです。

この門の特徴としましては、金沢城三御門の河北門、橋爪門、石川門と異なり、石垣の上に2階建ての櫓を備えた構造であったことや、城郭建築では全国的にも例のない海鼠壁の平瓦の目地（めじ）に黒漆喰が用いられていたことが挙げられます。



黒漆喰仕上げの海鼠漆喰（なまこじっくい）



中央大柱礎石



整備イメージ

また、この鼠多門と鼠多門橋の復元整備は、城の外周部に面していることから、魅力ある城下町の景観の創出はもとより、長町武家屋敷から尾山神社を経て金沢城、兼六園へとつながる「加賀藩ゆかりの歴史的回遊ルート」が明確となり、金沢城のシンボル性をより高め、都心部の回遊性が向上し、県都金沢、ひいては本県の魅力アップや賑わい創出につながるものと確信しています。



「加賀藩ゆかりの歴史的回遊ルート」

さらには、これまでの史実を尊重した本物志向での復元整備が継続されることにより、長年にわたって培われてきた伝統的建造技術が継承されるとともに、県内外に石川の匠の技を発信できることなど、復元の意義は大変大きいものと考えています。さらに、鼠多門橋についても今年の夏には工事着手し、遅くとも東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に、門と橋と共に完成を目指して整備を進めていきます。



鼠多門（二階 内部イメージ）

金沢城公園の復元整備は、多くの県民の皆様にご参加頂き、全県的な盛り上がりの中で事業を進めていく必要があると考えており、「県民参加による城づくり」に取り組んで行くこととしています。その一環として、復元事業への理解を深めていただくため、河北門、橋爪門と同様に、復元工事に使用する壁板や海鼠壁の平瓦に記念のメッセージを自由に記入していただく寄進事業を行っています。是非とも、多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。また、これまでの復元整備と同様に、工事の各段階においても、工事見学会、常時見学できるステージの設置、上棟記念式などの各種イベント等を実施していきます。工事が始まりましても、引き続き皆様のご来園をお待ちしています。

金沢城公園では、今後とも、本物志向での復元整備を進め、国内外から訪れる多くの皆様にご覧頂くとともに、本県の質の高い文化にさらなる厚みを加えながら、このかけがえのない文化遺産を後世に継承していきたいと考えています。



整備イメージ

【寄進の申込先】

●ホームページ

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kouen/index.html>

●申込受付場所

石川県庁16階：公園緑地課

金沢城公園内：金沢城・兼六園管理事務所

石川門前入口休憩所/二の丸案内所/玉泉庵



日本画家 古澤洋子さん

金沢市出身。金沢美術工芸大学美術研究科修士課程日本画専攻修了後日本画家として独立。1995年に石川県現代美術展で最高賞・美術文化特別賞受賞。2003年と2008年の二度にわたって日展特選受賞。
 その他受賞歴多数。現在日展会員、石川県美術文化協会理事。小松市立高等学校芸術コース非常勤講師。
 インタビュアー 文教会館 館長 藤井 直樹



～画家をめざすきっかけ～

館長：画家をめざすことをお決めになったのは、いつ頃のことでしょうか。

古澤：幼少の頃からずっと絵を描くのが好きで、寝ても覚めても絵を描き、家中に落書きしては叱られていました。その頃から「大きくなったら画家になる」と言っていたそうです。

館長：中学生の時に合わない先生がいて教師不信となるような、つらい思いをされたとも聞きましたが、その時も絵は描いていたのですか。

古澤：絵は好きだったので、美術の時間はストレス解消の時間でもあり他の科目より成績もよかったです。高校を受験するときにデザイン系を目指しましたが、デッサンの仕方も分からず、指導を受ける機会も持たずに希望の高校に入ることができませんでした。私立の高校に進みましたが、その時点で中学時代に受けたトラウマもあり、心は荒んで不登校となり、学校外での楽しさを求め家出までする状況に落ちていきました。

館長：そうでしたか。しかし、高校である先生との出会いがきっかけで絵画の道に進まれたのですか。

古澤：そうなんです。高校時代の荒れた状態の私を救ってくれたのが、母の愛と高校2年生の時の担任教師でした。親身に私と向き合おうとする姿が初めはうっとうしく振り払い続けました。それでも私を見捨てることをせず、何とか“本当の自分”を取り戻せるよう努力して下さる先生の姿勢にいつしか心を打たれていったのです。何事にも真っ直ぐな担任教師に出会ったことで、私は「ちゃんとした人間になろう」「私は本気で物事に打ち込む努力をしたらどんな人間なのだろうか、知りたい」と思うようになり、諦めかけていた絵の道でそれを実現することを決め、まずは大学受験を目指して実技と学科の勉強の両立に全力を尽くし努力を始めました。目指した金沢美術工芸大学に奇跡的に合格し、大学院まで進学でき、卒業を意識したときに

いよいよ漠然としていた「画家の道」を意識し決意したように思います。

～画家としての突破口～

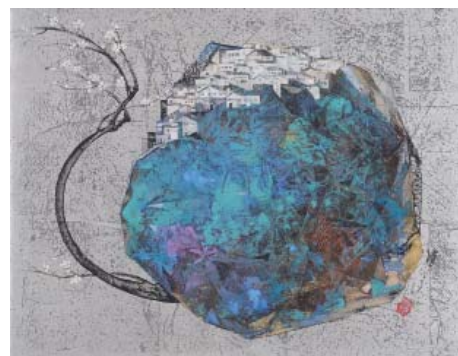
館長：お話をお伺いしていると、中学校から高校時代は多感な時期ですが、古澤様は、感受性も強く純粋な方だなと感じました。その頃体験された苦しさは、厳しい画家の道への原動力になったのでしょうか。その画家としての修業時代ではどのようなことが思い出に残っていますか。

古澤：美大を出てから私には直接指導して下さる師匠はいなかったのですが、ただひたすら上手になりたい、誰が見ても唸るほど良い絵を描きたいという一心でたくさん写生と作品制作をしてきました。日展への出品を中心に、全国のコンクールなどを調べてできるだけ多く出品しました。また、個展も積極的に開き、観てもらふことと辛辣な言葉を養分に休む間がないほど制作をして自ら多忙な状態に追い込んでいました。その中で、東京を目指していくつもの銀座の画廊に直談判しましたが、田舎の無名である私の個展など開いてくれる画廊はなく、何とか大枚をはたいて貸画廊での個展を開くことができました。やがて、それを見た別の画廊からの企画展の依頼がくるようになり、画商と知り合う機会もできました。画商との出会いが厳しくもプロとしての意識を高めてくれて画家として育てられました。

館長：画家としての突破口をご自分で切り開かれたことに驚きました。その修業時代にご自分を支えていたのは、どのような思いだったのでしょうか。

古澤：今も修行中ですが「一人で描く」、つまり「一人で生きる」ということを強く意識しながら、自分の選んだ道なのだから全うしなければいけない、と常に思っていました。むしろ、自分で選んだことができる幸せに感謝し、精一杯努力を惜しんではならないと覚えてきました。

青い星の町（6号）



～日本画の魅力とは～

館長：多感な時期と本質的には何も変わらず純粹なところが素晴らしいですね。絵画にはいろいろなジャンルがありますが、日本画を選んだのはどんなところに魅力を感じてのことでしょうか。

古澤：日本人だから日本画を大切にしたいと思いました。学んでいくうちに岩絵の具という自然界にある石や岩、鉱物などを細かく砕いて絵具として使用するという、まさに宝石で描く絵画に魅力を感じていきました。その美しさはもちろんですが、扱うのがとても難しく、逆にやめられなくなり30年も岩絵の具と格闘をしています。

館長：これまでに創作なさった作品はどれほどになりますか。

古澤：年間35点ほど制作していると考えそれを約25年続けていますので、おおよそですが800点以上になりますね。

館長：インスピレーションがおありでしょうが、モチーフなどを生み出す生みの苦しさもありませんか。創作活動を通して喜びを感じるのはどのようなときでしょうか。



古澤：絵画を通して私の願いをどうやって伝えるか、と考えています。平和のいとなみや生命の大切さを伝えたいし、今この一瞬の大切さを伝えたいと思っています。2011年の東日本大震災の2ヶ月後に仙台で個展を開催することになっていました。自粛ムードの中、筆が止まり、絵など描いていいのかと悩みましたが、私ができることは「絵で前向きな思いを、つらい思いをしている方に寄り添う絵を」と思い葛藤の中、個展を開催しました。その絵を見て下さった方々が涙を流して「神々しい絵です」や「感動しました」「救われました」と言って下さり、私自身が励まされました。絵で人を救うことができるということを教えていただいたことが何よりも喜びです。

館長：今年の5月に開催されました、風と緑の楽都音楽祭では「日本画とモーツァルトの融合」という企画でピアニストの菊池洋子さんの舞台に古澤様の「船出」が登場しました。「船出」に描かれているのはイタリアのシチリア島だと思いますが未知の世界に漕ぎ出す壮大で幻想的なイメージを持ちました。今回のピアニストの菊池さんとの共演はいかがでしたか。

古澤：音楽も絵画も五感で楽しむもので、二つの芸術がコラボレーションすることで、作品の情景や香りまで感じるのではないかと期待しました。「船出」は大作で菊池さんと話し合い、モーツァルト演奏曲のイメージに合うと思い選びました。菊池さんは、世界で活躍する素晴らしいアーティストです。その方と同じ

舞台に立つということで自分のレベルもそこに持っていかうと緊張し努力するわけですから、大変良い勉強になりました。

コンサート舞台の「船出」と「青い星」



～その場に立って体感する～

館長：その舞台でもお話されていましたが、古澤様は山を描くとき、必ずその山に登り五感を研ぎ澄まして感じたことを、自分の中に取りこんで紡ぎ出しているというお話が大変印象に残りました。

古澤：描くものは必ず経験や体験をしています。実際に山に登ることで険しさを感じますし、絵に臨場感もできます。高校で美術コースの日本画専攻の指導をしておりますが、「実際に見て五感で感じながらスケッチするということ」にこだわって指導しています。

館長：なるほど。体感してオリジナルの表現で相手に伝えることを大切にされているのですね。そのように高校で指導なさっていて、生徒にどのようなことを期待されていますか。

古澤：芸術は感性を育むもので、人間性の形成に大きく影響を与えていると思います。将来どのような職業に就こうか、心を癒し感性を豊かにし、感情の潤滑油として芸術に関わってほしいと願っています。

館長：今後の抱負をお聞かせ下さい。

古澤：地道に一歩一歩、歩んできたように、この先もそうして進化していきたいです。正直に言えば“画家”として人を救いたいです。

館長：本日はとても素晴らしいお話しをお聞きすることができました。ありがとうございます。古澤様のご活躍を心から期待しています。



事業報告

2018年度 文教国際理解講座のご案内

アメリカ・韓国・中国出身のネイティブスピーカーの指導で、外国の言葉や文化を学べます。
定員に空きのある講座には途中入会ができます。
お申し込み前に見学もできますので、お電話でお気軽にお問い合わせください。

実施期間：2018年5月～2019年3月
対象：一般、教職員、高校生
定員：1講座 20名
受講料：年額36,000円(年35回)(教材は実費負担)
※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。

※中国文化は19：00～20：40

	10：00～11：40	18：30～20：10
火曜日	英米文化 中級	☆英米文化 準中級 英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級 ☆英米文化 中級	☆英米文化 準中級 ☆韓国文化 初級 ☆中国文化 初級
木曜日	英米文化 初級 英米文化 準中級	英米文化 初級 ☆英米文化 中級

☆は途中入会可能です。

文教国際理解講座

検索

☆ホームページから募集要項等をご覧ください。



タニモト先生 (韓国文化)



リョウ先生 (中国文化)



タスケン先生 (英米文化)



コンソルボ先生 (英米文化)

この講座では様々な年代の方と話をすることができて楽しいです。日本だけではなく世界のニュースについて英語で理解できるように意識するようになっていきます。(英米文化受講生の声)



教育資料収集整理事業

当財団では、本県の教育の足跡の顕彰と活性化に寄与していきたいと考え、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。江戸時代に藩学で使われていた書籍や明治時代からの教科書をはじめ、教育文献・教育物具等、収集数は5万点を数えます。これらの教育資料は当館の資料展示室や物具室で閲覧することができます(要予約)。1階ロビーにおいても随時、収集資料の紹介をしています。

また、年間を通じて県立学校の活動の紹介等を行うロビー展や、11月の教育ウィーク期間中にはどなたでも参加できる教育史セミナーを開催し、多くの県民の皆さまに教育に対して関心と理解を深めていただけるようつとめております。当館へぜひともお立ち寄りください。



ロビー展

※ロビー展の様子は当館ホームページをご覧ください。

ロビー展出展団体の募集

学校や団体等の活動紹介、絵画・習字・工作等の発表に当館のロビー展をご活用ください。

推進委員会と資料調査委員会



当事業の充実を図るため8教育団体※のご協力を得て、年2回の推進委員会(写真左上)と年1回の資料調査委員会(写真右上)を開催しています。

委員の皆さまからは、教育資料の収集整理・活用に関するご意見や小中・高等学校等の資料の情報等を頂戴しています。

※県小中学校長会・県高等学校長協会・県退職校長会・県高等学校退職校長会・県PTA連合会・県高等学校PTA連合会・県教育振興会・県特別支援学校長会

資料展示室



物具室



※蔵書リストは当館ホームページよりダウンロードができ、ご自由にご覧いただけます。

＊お願い＊

学校やご自宅で廃棄予定の古い教科書や教具の教育資料を当館にご恵贈ください。

文教会館教育資料

検索

石川県文教会館 TEL.076-262-7311

事業紹介

2018年度 文教アートウェイブ

文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年度も感動のひとつときをお届けします。

金沢弦楽合奏団 第47回定期演奏会 H30.5.12

金沢室内管弦楽団 第32回定期演奏会 H30.6.10



H30.5.12 金沢弦楽合奏団



金沢高等学校吹奏楽部 サマーコンサート H30.7.21

ジュニアピアノ&バレエ Summerファンタジー H30.7.16



H29.7.15 金沢高等学校吹奏楽部

☆☆ 今後の公演予定 ☆☆

金沢市立小将町中学校吹奏楽部第7回定期演奏会
平成30年8月6日(月) 開演15:00

◆入場無料

石川県立金沢泉丘高等学校合唱部第10回定期演奏会
平成31年3月30日(土) 開演14:00

◆入場料：500円 当日：500円

石川県立金沢桜丘高等学校吹奏楽部クリスマスコンサート
平成30年12月23日(日) 開演17:30

◆入場無料



H.30.3.31 石川県立泉丘高等学校合唱部

石川県立金沢伏見高等学校吹奏楽部
第6回定期演奏会
平成31年3月23日(土) 開演14:00

◆入場無料

石川県立金沢辰巳丘高等学校合唱部第3回演奏会
平成31年3月31日(日) 開演15:00

◆入場料：700円 当日：700円



文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方にホールについて利用料と冷暖房費を無料でお貸ししています(照明設備費・舞台技術費等有料)。リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。

☆ホームページから募集要項や申請書、過去の公演一覧をご覧いただけます。

文教アートウェイブ 検索

文教会館の施設ご利用について —教育文化の発信に 研修・会議・交流の場—

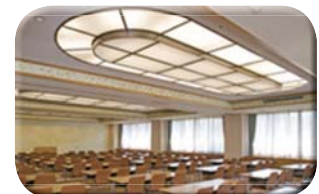


大ホール

590人収容の大ホールをはじめ、会議室、和室等、様々なお部屋がございます。会議や研修、などにご利用頂けます。



4階和室大会議室



4階大会議室

当館ホームページで詳細をご覧になれます。街中のオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。

第31回 いしかわ県民陶芸展

— アマチュア陶芸作品募集 —

県内のアマチュア陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。

石川県にお住まいの方や、石川県内の陶芸教室で創作活動を行っている方などなたでも応募できます。初心者の方も大歓迎です。小さなお子様からご高齢の皆様まで、ぜひ、ふるって作品をお寄せください。お寄せいただいたすべての作品を展示します。どうぞ、発表の場としてご活用ください。



第30回
いしかわ県民陶芸大賞
水 樹
岸田 浩嗣



第30回 審査会の様子

■作品応募について

- 作品規定** ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時** 平成31年1月13日(日) 10:00～15:00
- 受付場所** 石川県文教会館1階ロビー
- 出品料** 一般：2,000円、青少年（20歳未満）：無料
- 審査員** 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門（敬称略）

応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。
 また、当館のホームページからもダウンロードできます。
<http://www.bunkyo.or.jp/>

■作品展示について

- 展示期間** 平成31年1月19日(土)～27日(日)
 9:00～16:30（最終日は15:00まで）
- 展示会場** 石川県文教会館
- 表彰式** 平成31年1月20日(日) 13:30～15:10 石川県文教会館
 ◇賞状授与：大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
 ◇審査員による講評・作品解説
- その他** 展示期間中、入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施します。投票された方には抽選で記念品を贈呈します(若干名)。

入場無料



作品展示の様子

主催：公益財団法人石川県文教会館
 後援：石川県、金沢市、石川県教育委員会、北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、FM-N1

「いしかわ教育ウィーク」関連行事のお知らせ

教育資料ロビー展

文教会館所蔵

「外国語」教科書のあゆみ展

期間：11月1日(木)～7日(水)
 会場：石川県文教会館1階ロビー

入場無料

当館が所蔵している明治から現代までの教科書約5,800点の中から、「外国語」の教科書を中心に展示します。



「教育史セミナー」開催

- 日時** 11月2日(金) 14:30～16:00
- 会場** 文教会館4階大会議室
- 講演** 演題 「障害者権利条約と学校教育」
 講師 緩目 敬 氏
 (元石川県立明和養護学校長)
- 参加費** 無料・申込不要

国連の障害者権利条約の採択に伴い、一般の学校も関係する大幅な学校教育法の改正などが行われたその経緯についてご講演していただきます。